

「めぐみちゃんメニュー事業」を始めます

市内の農産物から生まれる新しいおいしさ!

市では、市内産農産物を使用した飲食物(加工品・土産物などを含む。)を飲食店などの協力を得てメニュー化し、消費者などへ提供することにより農業振興を図るとともに、地域経済の活性化を促進することを目的に、「めぐみちゃんメニュー事業」を始めます。

◆産業振興課 042-438-4044

◇「めぐみちゃんメニュー事業」とは・・・

市内の飲食店をはじめとする商工業者の方から、西東京市産の農産物を使ったオリジナルメニューを募集し、「めぐみちゃんメニュー」として認定するものです。

◇めぐみちゃんメニューの参加基準など

市内で営業する飲食店をはじめとする商工業者の方、農業を営む方であればどなたでも本事業に参加できます。

- 商工業者の方へ
 - ・市内産農産物を必ず1品以上使用した飲食物(加工品・土産物を含む。)を提供すること。
 - ・本事業の趣旨に沿った販売活動やPR活動に協力できること。
 - ・農産物の産期があることから、「期間限定」メニューであってもOK!
 - ・季節の「旬」の農産物を活用した「シリーズ化メニュー」もOK!
 - ・1つのお店で複数のめぐみちゃんメニューの考案、提供もOK! など
- 農業者の方へ
 - ・次のようなお考えの農業者の方は、ぜひご参加を!
 - ・「もっと多くの市民の方に、私たちが作った農産物を食べてもらいたい!」
 - ・「西東京市の農業を盛り上げたい!」 など

※詳しい内容は、下記事務局までお問い合わせください。

◇認定されると・・・

認定された商工業者および出荷する農業者の方は、「(仮称)西東京市農業魅力発信ポータルサイト」に掲載・紹介するとともに、提供店を対象としたマップなどに掲載されます。また、9月以降キャンペーンを行い、広く本事業の周知を図ります。

チラシ配布場所

詳しい事業の内容を記載したチラシを、以下の場所で配布しています。また、下記事務局までお問い合わせをいただければ、別途お送りします。

- ◇市役所(田無庁舎・保谷庁舎) ◇柳橋出張所、ひばりヶ丘駅前出張所 ◇各公民館
 - ◇東伏見ふれあいプラザ ◇JA東京みらい 保谷支店(泉町3-1-1)・田無支店(田無町5-10-1)
 - ◇西東京商工会 保谷事務所(住吉町6-1-5)・田無事務所(南町5-6-18)
- ※公式HPからも、ダウンロードできます。

問「めぐみちゃんメニュー事業」事務局(委託先:(株)マインドシェア内) ☎03-6823-1234 FAX 03-5232-0586 ✉megumichanmenu@mindshare.co.jp
公式HP西東京農業(めぐみちゃんメニュー事業) <http://farm-nishitokyo-city.jp> お問い合わせ受け付けおよびHPの公開は、6月24日(月)からです。



西東京市 農産物キャラクター「めぐみちゃん」

市では、「農家と市民が育てる豊かな農業 西東京」をテーマに市内で生産された農産物のイメージキャラクターを一般から公募し「めぐみちゃん」が誕生しました。「めぐみちゃん」は都内有数の産地となっている市内のキャベツをイメージしたかわいらしい女の子で、市内農産物のシンボルです。

説明会開催

本事業に参加を希望または興味がある商工業者・農業者の方を対象に、説明会を開催します。

時 7月11日(木) ①午後2時～4時 ②午後7時～9時
場 防災センター6階

内 事業の目的および概要・参加基準などの詳細について
申 ファクス・Eメールで、商工業者または農業者名・住所・連絡先を明記のうえ、下記事務局まで参加申し込み(電話でも可)。
※説明会への参加は、本事業への参加条件ではありません。
説明会に参加ができない商工業者および農業者の方も、本事業へ参加することができます。お気軽に事務局までご連絡ください。

メニュー第1次募集

7月末まで受け付け。
書類審査・現地確認を経て、提供店として認定されます。

めぐみちゃんメニューのPR

メニューの認定後、専用ポータルサイト・マップなどでの紹介、キャンペーンの実施などによりPRを行います。

メニュー第2次募集(随時募集)

11月以降、新規提供店を随時募集します。
第1次募集に間に合わなかった方もご参加ください。

大好きです 西東京

市内の情報をお届けします

わが街 郷土編

これから、4回にわたり「ふるさと発見!」と題して、西東京市内の歴史や文化財にまつわるトピックスをご紹介します。今回は、またの名を「水無月」ともいう6月にちなんで、「水」のお話をしましょう。

(道中馬を乗り換えたりする場所)として谷戸地域から人々が移住して開かれ、宿場のにぎわいを見せた村です。石神井川や白子川の流れてきた上保谷村や下保谷村と異なり、水の道ではなく人の道に沿って作られたため、当初は大変水に苦労しました。江戸の人々にとっても、十分な水を確保することは一大問題でしたから、多摩川から江戸御府内へ水をひくために造られた玉川上水からの分水の願いはなかなか聞き入れられず、ようやく許しを得て、田無用水を引くことができたのは1696年のことでした。



天徳神社

水は、わたしたちの生活に欠かせないもの。西東京市域には白子川、石神井川の2つの河川が流れ、流域には下野谷遺跡のように3万年も前の大昔から人々の活動のあとが残る遺跡もあります。中世には、いくつかの集落ができ、江戸時代には、市域に「田無村」「上保谷村」「下保谷村」「上保谷新田」の4つの村がありましたが、いずれもが水とのさまざまななかかわりの中でそれぞれ異なる歴史や文化を育んできました。田無村は、江戸幕府が青梅から石灰を運ぶために造った青梅街道の継場

田無村の人々は、青梅街道開通の1606年からおよそ100年間にもわたり続いた、水を谷戸までくみに行く生活から解放され、その後、用水には水車もかけられました。

現在、青梅街道をはさんで通る南北の遊歩道である「ふれあいのこみち」「やすらぎのこみち」の地下には、この田無用水が今も流れています。

そんな田無村の鎮守、田無神社の本殿には江戸の名工嶋村俊表の手により、龍や、水をめぐると逸話が彫りこまれています。また、現在は神輿殿に置かれている雌雄の獅子頭は、雨乞いの踊りを奉納するために用いられました。



金箔仕上げの獅子頭



しーた のーや ©S.Takishima2007

ふるさと発見!

1

上保谷村の鎮守、天徳神社は水と風の神の神社といわれ、下保谷村の鎮守である天徳神社の拝殿の壁には龍や波の絵が鏝絵で描かれています。上保谷新田の南縁を流れる玉川上水の土手は、春には桜で彩られる国の名勝地小金井(サクラ)です。

梅雨が明けたら水をめぐる市内文化財めぐりに出かけてみませんか。ただし、水分補給は忘れずに!

- ◆社会教育課 042-438-4079
- ◆秘書広報課 042-460-9804



※今回は9月15日号で「したのや縄文ムラ」の裏の秋を予定しています。